



## 1 基本

物事を客観的に事実として述べる平叙文<sup>1</sup>（≒通常の文、例：「Tom is a doctor. (トムは医者です。)」）に対し、「なんと～であろう！」と驚きや喜び、悲しみなどの感情を表す<sup>2</sup>ために用いられる文を感嘆文 (exclamative) 文 (例：「What a good doctor Tom is! (トムはなんと良い医者であろう!)」）という。

感嘆文は、文の①目的語や補語において中心になっている名詞を修飾している形容詞 (例：「Tom is a good doctor.」)、②補語において単独で用いられている形容詞 (例：「Tom is kind.」)、あるいは③修飾語として用いられている副詞 (例：「Tom runs fast.」) の部分における感情を主に表す<sup>3</sup>。

平叙文	感嘆文
Tom is <u>a good doctor.</u> トムは良い医者だ。	<u>What a good doctor</u> Tom is! トムはなんと良い医者であろう！
Tom is <u>kind.</u> トムはやさしい。	<u>How kind</u> Tom is! トムはなんとやさしいのだろう！
Tom runs <u>fast.</u> トムは速く走る。	<u>How fast</u> Tom runs! トムはなんと速く走るのだろう！

感嘆文にはwhatと用いるものとhowも用いるものの2種類があり、文頭移動して強調される部分が名詞句の場合はwhatを用い、文頭移動して強調される部分が形容詞句または副詞句の場合はhowを用いる。

平叙文を感嘆文へと書き換える方法は以下の通り：

- ①「なんと～！」の形で感情を表したい目的語/補語/修飾語を文頭移動（＝前置）する。
- ②文頭移動した目的語/補語/修飾句の前にWhatまたはHowを付ける。
- ③文末のピリオドを感嘆符 (exclamation mark) 「！」<sup>エクスクラメーション マーク</sup>に変える。

感嘆文はC S V（補語→主語→動詞）やO S V（目的語→主語→動詞）などの通常とは異なる特殊な語順になる。whatまたはhowが付いて文頭移動した部分の後に続く残りの部分に関しては、平叙文と同じ語順を維持し、疑問文におけるように主語（S）と動詞（V）を倒置させたりはしない<sup>4</sup>。

<sup>1</sup>英語における「～文」という分類は、文の目的 (purpose) による分類である。平叙文 (物事をありのままに述べる、declarative)、疑問文 (疑問を呈する、interrogative)、感嘆文 (感情を表す、exclamatory)、命令文 (命令する、imperative) など。例えば命令文「Don't smoke!」であれば、この文はそういう内容の命令が存在することを客観的に述べているわけではなく、この文を発すること自体が命令という行為になっている。

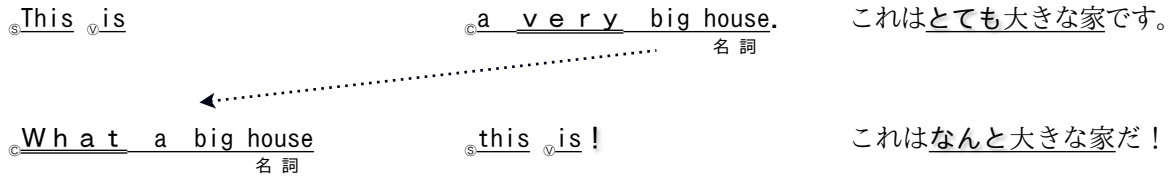
<sup>2</sup>感嘆文はあくまで話者の感情を表すことを目的とする文であり、感情表現そのものである。ある人の心理状態を客観的に事実として述べる場合は平叙文を用いる。

<sup>3</sup>他に前置詞の目的語 (例：「What a mess we are in!」) や、まれに主語 (例：「What an enormous crowd came!」) の部分に関しても感嘆文を作ることができる。

<sup>4</sup>文語調の文では感嘆文でもS Vが倒置される場合がある。例：「How pretty is this flower!」

2 what

文頭移動して強調されるところの目的語/補語/修飾語が名詞句の場合<sup>5</sup>は、whatをその前に付ける。下の例文では、名詞houseが補語の中心になるのでwhatが前に付いている（veryはwhatと入れ替わりで抜ける）。



冠詞a/anは、whatの後に入る。なお、名詞が複数形の場合には冠詞a/anは不要。

前半				後半			
What	(a/an)	<形容詞>	<名詞>	<主語>	am/are/is		!
なんと<形容詞>なく<名詞>…				なんでしょう、<主語>は！（be動詞）			
● ● ●							
What	a	fast	runner	he	is		!
なんと速い走者…				なんでしょう、彼は！			
What		fast	cars	those	are		!
なんと速い車…				なんでしょう、あれらは！			
前半				後半			
What	(a/an)	<形容詞>	<名詞>	<主語>	<動詞>		!
なんと<形容詞>なく<名詞>…				を、<主語>は<動詞>するんでしょう！（一般動詞）			
● ● ●							
What	a	smart	son	you	have		!
なんと賢い息子…				を、君は持っているんでしょう！			

<sup>5</sup>例外については4以降で言及。



4 応用

① 後半のSVの省略

What a big man! <small>「he is」は省略。</small>	なんと大きな男だ！
How rude of you!	君はなんて失礼なんだろう。

感嘆文の後半の「<主語> <動詞>」の部分は省略される場合もある。

② How+形容詞+名詞

前半	後半
How <形容詞> (a/an) <名詞> なんと<形容詞>な<名詞>…	<主語> am/are/is ! なんでしょう、<主語>は！ (be動詞)
● ● ●	
How fast a runner なんと速い走者…	he is ! なんでしょう、彼は！

howを使う感嘆文でも、前半に名詞を入れる場合がまれにある。この場合、what感嘆文とは冠詞a/anの入る位置が異なることに注意。how感嘆文では冠詞a/anが形容詞の後、名詞の前に入る。

③ what+名詞単体

What an idiot!	なんとというアホだ！
What a mess! Set your room straight.	ひどい散らかしようだ。部屋を整頓しろ。

感嘆される名詞自体に形容詞の意味合いが含まれている場合（例：「馬鹿者」を意味する名詞idiotは「馬鹿な～」を意味する形容詞stupidが含意されている）、形容詞を伴わずに名詞単体で感嘆文を形成することができる。

What a day!	なんて（ついてない/すばらしい）日だ！
What a man!	なんと（すごい/ひどい）男だ！

また、形容詞を省略しても文脈的にわかる場合にも、名詞を単体で感嘆文に用いることがある。

④ 感嘆文＋to不定詞

<p>What a coincidence <u>to see you here!</u></p>	<p>ここで君に会うとは、なんという偶然だ！</p>
---	----------------------------

感嘆文の後半の「<主語> <動詞>」の部分でto不定詞句を用いることもできる。

⑤ 感嘆文の間接話法

<p>I thought <u>what a fate mine might have been.</u></p>	<p>どんな運命になっていたことであろうかと思っ</p>
---	------------------------------

感嘆文は語順変化せずそのまま間接話法で用いることができる。